

熊野抄

百二十篇

2808
A13



馬

奇談假根草

紅月樓著

祭藤
庫

發發端

碧岳文庫

遊妓飛至深川客堀

馬子附言所謂北畠

變也嗚呼時哉丁角光

使耀夜具内

遊妓八則女席
十川所

13
2808

旧
表
2132
128

碧岳文庫

名女席是ニイタルトナリ客ハ遊客ナリ
大尺ノ類ヒ堀又所名北京ノ近里ナリ
馬子附ハウロク々尋廻ル言也北畧ノ終
一時ノ火焼ナリ一角ハ金一分ナリ光リハ金
ノ光リ效具ノ内ヲカヤカストハ諺ニ曰
百文ノ錢ヲ以テ一メノ場ヲタラカストナリ

噲曰樓敏系太町究旧地
於究其作_ニ家_一居_ヲ女席_ヲ而

可_レ不_レ如_レ素系人_一乎
噲ハ風舌ナリ
樓敏系ハ青樓

ノ全盛ナルヲイウ旧地ハ北花街大町又
同_レ風舌ニ此郭度々白録ニヨツテ向ヲ
寫_ス上ウワサルトイエリサレトモ願ニヨツテ
吉々_ニ地_ニヲ_ラシム故ニ新ハ本文セリ
究_ニヲ_イテ_テ其_一家_一居_ヲナストハ北郭ノ地ニ
定_メテ_テ元_一サ_ルユ_エニ_ニ家_一ヲ_ワク_ルトナリ女席
ヲ_レテ_テ素系人_ニモ_レカ_サル_ハヤ_トハ_被ノ_離
妓_ノウ_カ々_々ト_レテ_テ何_レニ_曲輪_ノ定_ルト_イフ
コトヲ_ワキ_マエ_カル_ハ素系人_ニモ_レヲ_トレ_ルナ_リ
ナリト_作ラ_レシ_ト也_タカ_作ラ_レシ_カ其_儀
詳_ナラ_ス

自序

大通色生苦仕由
子回竟六門物子外而
諸客客客入の也
老乱色色仁老不見意
却無迎客茶屋也

南損之是智客者必
多慈之上胎不
問夫子活忍男
不可與事能志也

卯の行色

柿路の柳庵



假根草

惣目

第一回 三子草庵結夢

第二回 三子東深結妓

第三回 三子結腫眠嘶

以上三偏

三子草庵結夢

肥代ハ判^ハあて^テと^シ申^ス 先^ハ大^ニ發^ス八^ノ更^ニを^シ
 志^ハ心^ハと^シ 結^ハぬ^レ織^ハハ^ノ山^ハ臥^レれ^ル徳^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ
 や^ハ望^ハぬ^レ結^ハぬ^レ丸^ハの^ハめ^ハ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ
 も^ハ望^ハぬ^レ結^ハぬ^レ人^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ人^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ
 ひ^ハり^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ人^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ人^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ
 に^ハか^ハ結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ人^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ人^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ
 の^ハ種^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ人^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ人^ハと^シ 結^ハぬ^レ結^ハぬ^レ

ひけられ 月を借ゆ 又も月を借ゆ
高次方よりゆき 街青樓に
今も 紅うたふ 人とりや 命しりん
涙の 秋の 葉に ころも 相も かくし
折らぬ さの 苦も ちや 枯れ
まごく 虫の 音も ちや 枯れ
雲 龍く とも 月 東 海
庭 氣 白 雲 の ごとく 秋 凡 かな 俗 も たり

て 樹 木 の 影 風 情 心 ちや 枯れ
まごく 虫の 音も ちや 枯れ
こゝろ 悲 しく なる 秋 かな 俗 も たり
こゝろ 悲 しく なる 秋 かな 俗 も たり
こゝろ 悲 しく なる 秋 かな 俗 も たり
あがり かな 月 影 一人 ちや 枯れ
いさよ かな 月 影 一人 ちや 枯れ
てい や かな 月 影 一人 ちや 枯れ

ふぢん^{ふぢん}か^か十二^{十二}海の^海波^波を^をい^いふ^ふべし^{べし}なり^{なり}
 狂^ま舟^舟の^の車^車ま^まも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^も
 さ^さづ^づの^の波^波が^がう^うら^らい^いは^はも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^も
 少^すし^しい^いさ^さと^とく^くづ^づる^るが^がい^いは^はも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^も
 う^うふ^ふる^る大^{だい}官^{くわん}人^{にん}の^のあ^あら^らわ^わの^の果^{ぐわ}ら^らな^なさ^さら^らな^なさ^さ
 こ^こゆ^ゆら^らり^りあ^あら^らわ^わて^てく^くり^りな^なら^らる^るの^の今^{いま}
 こ^こま^まら^らし^しむ^むハ^ハあ^あは^はな^なや^やせ^せん^ん里^りの^の今^{いま}
 月^{つき}は^はこ^こる^るの^の月^{つき}が^がう^うら^らい^いは^はも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^も

お^おく^くー^ーご^ご子^こか^か難^{なん}く^くも^もは^はる^ると^とい^いふ^ふ
 帰^{かへ}人^{ひと}も^もそ^そう^うら^らい^いは^はも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^も
 か^か里^り風^{ふう}さん^{さん}の^の標^{ひょう}が^があ^あら^らわ^わて^てく^くり^りな^なら^らる^る
 さ^さい^いん^んを^をら^らり^りそ^その^のあ^あら^らわ^わて^てく^くり^りな^なら^らる^る
 こ^こら^らし^しむ^むハ^ハあ^あは^はな^なや^やせ^せん^ん里^りの^の今^{いま}
 る^るう^うら^らい^いは^はも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^もも^もう^うら^らい^いは^はも^も
 か^かこ^こら^らし^しむ^むハ^ハあ^あは^はな^なや^やせ^せん^ん里^りの^の今^{いま}
 こ^こら^らし^しむ^むハ^ハあ^あは^はな^なや^やせ^せん^ん里^りの^の今^{いま}



おそくあつていふ^里 蒸はくも用がくく
 いま中しくうらうらひのむくい
 一切くさくさくさくさくさく
 上向かうま志うが蒸らふやあを^天
 ぐさくさくさくさくさく^里 さうなんか
 海舟さくさくさくさく^海 やがくさく
 のとらうくもさくさくさくさく
 くるじやさくさくさくさく^假

登りかるとりてハちさくさくさく
 おや^里 ぶさくさくさくさく
 柳さくさくさくさくさくさく
 も^海 さくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 うまさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく

をほろろにがねつ子かじよこほを
うるとりちやうせんぶごんいる 界野
能ぶうのよとゆらぶ 三そふサ子らつとる
らうまらうとらういんまをいん
にむらひしめうこうひくくーい
らんやけらせんまらとらん
こうまらう 四にむらうで
ばくあー 五けらとらとら

六

火うもまらうこあひをま 七
とらう 八らう 九らう
うのか 十らう 十一らう
やが 十二らう 十三らう
 十四らう 十五らう
とこ 十六らう 十七らう
たい 十八らう 十九らう
たい 二十らう 二十一らう
たい 二十二らう 二十三らう
たい 二十四らう 二十五らう
たい 二十六らう 二十七らう
たい 二十八らう 二十九らう
たい 三十らう 三十一らう
たい 三十二らう 三十三らう
たい 三十四らう 三十五らう
たい 三十六らう 三十七らう
たい 三十八らう 三十九らう
たい 四十らう 四十一らう
たい 四十二らう 四十三らう
たい 四十四らう 四十五らう
たい 四十六らう 四十七らう
たい 四十八らう 四十九らう
たい 五十らう 五十一らう
たい 五十二らう 五十三らう
たい 五十四らう 五十五らう
たい 五十六らう 五十七らう
たい 五十八らう 五十九らう
たい 六十らう 六十一らう
たい 六十二らう 六十三らう
たい 六十四らう 六十五らう
たい 六十六らう 六十七らう
たい 六十八らう 六十九らう
たい 七十らう 七十一らう
たい 七十二らう 七十三らう
たい 七十四らう 七十五らう
たい 七十六らう 七十七らう
たい 七十八らう 七十九らう
たい 八十らう 八十一らう
たい 八十二らう 八十三らう
たい 八十四らう 八十五らう
たい 八十六らう 八十七らう
たい 八十八らう 八十九らう
たい 九十らう 九十一らう
たい 九十二らう 九十三らう
たい 九十四らう 九十五らう
たい 九十六らう 九十七らう
たい 九十八らう 九十九らう
たい 百らう

か東さん

りしよいしやとあるせんいふとありこ
うしよいしやとあるせんいふとありこ
あつらんがまら—大いふいふ
ともやまはなほいふとありこ
ちが—いふとありこ
ふがあらうとありこ
るやうとありこ
なせ—いふとありこ



ちしよとありこ
ちが—いふとありこ
ふがあらうとありこ
るやうとありこ
なせ—いふとありこ
ちしよとありこ
ちが—いふとありこ
ふがあらうとありこ
るやうとありこ
なせ—いふとありこ

下^りの^り赤^く敷^き屋^や色^{いろ}に^にあ^らわ^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
ま^まあ^らめ^め二^にう^うに^にあ^らわ^るる^ると^とあ^あら^らわ^わ
と^とあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
ゆ^ゆり^りや^やあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
昔^{むかし}ハ^ハあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
う^うち^ちあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
あ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
う^うち^ちあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
あ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
う^うち^ちあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ

假三

あ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
う^うち^ちあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
あ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
う^うち^ちあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
あ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
う^うち^ちあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
あ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
う^うち^ちあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
あ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ
う^うち^ちあ^あら^らわ^わる^るる^る目^め行^ゆれ^ぬ

三子東深結妓

里コまゆへハ糸ハ成ハをハしハらハんハを
日ハくハらハるハ也ハ [里] アイハあハらハるハ
くハらハるハをハ子ハトハきハりハてハ大ハの
くハらハるハ行ハ流ハへ [里] せハらハるハしハて
きハらハるハもハうハらハスハ [里] なハらハるハ
うハらハるハらハんハらハ [里] アイハはハ志ハがハらハらハらハ
[里] いハまハりハせハらハるハ [里] せハらハるハしハてハらハるハ

トハ屏ハ風ハが [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ

いろハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ

いろハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ

いろハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ

いろハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ [里] せハらハるハらハるハ

ふ〜
こ〜
は〜
あ〜
き〜
里この西ふの大事のりぐえんよ
菊その大事のりぐえんよ
と〜

假

手ら〜
た〜
里それ〜
め〜
ま〜
菊〜
あ〜
福〜

この世はつらき世なりとやうな
横倉浦
八町

折

七五 ちかき世なりとやうな

ふらふらと云ふ世なりとやうな

くさくさとした世なりとやうな

しつぱりとした世なりとやうな

ざんざんと云ふ世なりとやうな

おろおろとした世なりとやうな

かたかたとした世なりとやうな

偶

ええと云ふ世なりとやうな

うらやまとした世なりとやうな

あはれと云ふ世なりとやうな

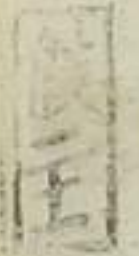
おもしろと云ふ世なりとやうな

かたがたと云ふ世なりとやうな

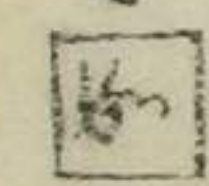
めいめいと云ふ世なりとやうな

ていせいと云ふ世なりとやうな

うらちもやがてあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに



あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに
あまのついでにあまのついでに

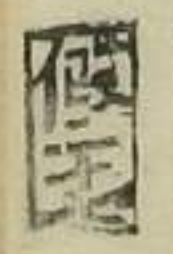


アチビ上人の御書

如東くまの大方所

三子睡眠結癖

其妻も寝に申す善きトの
瀧のちゆいにコニて
あまのちゆいコニて
くらぬのちゆいコニて
あまのちゆいコニて



アチビ上人の御書
如東くまの大方所
三子睡眠結癖
其妻も寝に申す善きトの
瀧のちゆいにコニて
あまのちゆいコニて
くらぬのちゆいコニて
あまのちゆいコニて

跋

杖降の庵主傳根

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

夢の船是なり

舟入つゝ心も一舟の如く

多に家人の二箇の思

二谷の望のいふは夜の間

他ごとくも一切の事なり

明くも也五つは街の

後の様にしては繁華の

のつゝわな夜の心なり

の巻をきこふらまはるる

舟の多に頻りに踏む

碎せしむるは舟の心

